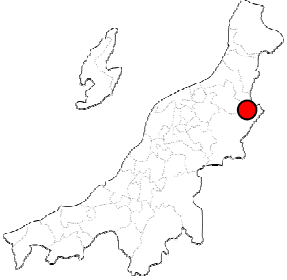


平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	赤谷地域 活性化モデル事業
対象地域	新潟県新発田市赤谷地域
対象地域の概要	   【位置図】 【市内でも最も降雪量が多い赤谷地域】 【高齢化や猿害による耕作放棄地が増加】
提案内容の概要	昨年度、事業の実施組織として「赤谷小学校区連携協議会」を創設し、地域での困り事や課題の洗い出し、資源掘り起こしを行った。 本年度は洗い出した地域課題に基づき、<u>猿害対策、ボランティア輸送の生活交通確保策</u>を中心に赤谷ファン獲得のため、地域資源を活用したPRイベントや情報の発信、集落間を連携した相互扶助機能の強化に取り組む。
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	昨年度、赤谷地域各集落で実施した困り事の検討の結果「地域の生活交通確保」と「猿害対策」が最も大きな課題であることが浮き彫りとなった。また、過疎・高齢化の進む地域において、相互扶助体制の強化と地域の活動をサポートする地域外住民の確保などがコミュニティ機能強化を行う上で必須となる。 ●生活交通対策：地域の実情やニーズを正確に捉え、有効な手段を検討するため、全世帯を対象にアンケート調査を実施したところ、半数近くが最寄りのバス停まで行く事が困難と回答しており、高齢化や一人暮らし世帯が進行する中、地域住民の足の確保が一番の不安要素となっている。 ●猿害対策：昭和60年頃から被害が出始め、各集落、各個人で追い払いなどの対策がとられてきたが、抜本的な解決策がないことから、農作物被害や人家への侵入など被害が拡大している。市でも発信器の装着による追い払い隊を組織して対策を講じているが、地域との連携体制の不備もあり解決には至っていない。 ●相互扶助機能強化と交流機会の創出：過疎・高齢化の進行や一人暮らし世帯の増加に伴い、災害や防災対策をはじめ地域課題解決のため、各集落が連携した相互扶助機能を強化することが必要となってくる。また、これに伴い地域活動に携わる若年層の過重負担が問題となることから、多くの赤谷ファンや地域外住民を巻き込んだサポート体制の構築が必要となる。
(2) 活動内容の案	活動①：ボランティア輸送による生活交通対策の実施 内容： 平成20年度に実施した生活交通アンケートの結果において、半数近くの90名（回答総数223名）が日常生活において交通の確保に苦慮していると回答しており、実際に検証すると徒歩で近くのバス停まで30分～40分ほどの時間を要することが判明した。また、上赤谷集落にある診療所に通院する者が134名おり、その内の65名は足の問題から通院に支障をきたしているという回答しており、生活交通の確保が地域の最優先課題である。同アンケートでボランティアへの参加について質問したところ60名が協力できると回答している。このことから、マイカー等により、地域内を循環するボランティア輸送による生活交通の確保策について検討と実証実験を行うとともに、そこから得られた課題や問題点を検証して、将来に渡って継続可能な生活交通確保策の構築を行う。 活動②：猿害対策の実施 内容： 赤谷地域においては、市内でも最も早い昭和60年頃から猿害が発生し、その被害は年々拡大している。昨年度、開催した猿対策研修会でのアンケート調査においても「猿の人馴れ度」が高く、農作物被

	害のみならず人家への侵入也多発している。同事業において地域特産品の開発や耕作放棄地対策を検討する中でも、猿害による作物被害の増加と耕作意欲の低下が著しく、猿対策は喫緊の課題となっている。市や農協などの関係機関も発信器装着による追跡調査や追い払い隊を組織して対策に取り組んでいるが、地域との連絡体制が不備であることに加え、人数的にも十分でないことから思うような効果は得られていない。 このことから、猿害対策アドバイザーを招請し、効果的な対策の検討及び実施を行うとともに、地域内に猿情報担当者を置き、目撃情報や追跡予測について情報集積を行い地域内各戸へ効果的に発信できるような仕組みを構築する。(掲示板を使った情報伝達、携帯メールを活用した発信など)
	活動③：相互扶助機能強化と交流機会の創出
	内容： 昨年度、同事業において相互扶助体制を確立するため高齢者等の災害時避難経路の検討や連絡網の整備を行った。今年度は、災害時のみならず、降雪期における高齢世帯の除雪（雪降ろし）サポートや生活交通確保など、地域内において互いに助け合い、支えあうための仕組みづくりを行う。 また、耕作放棄地対策や猿害対策など、地域だけでは対応しきれない問題の解決を行うため、棚田サポーター制度の検討、一部実施や地域資源を活用（歴史・伝統芸能・食）したイベントなどを通じて、多くの人たちに赤谷への関心を深めてもらうとともに、将来的に赤谷サポーターへ移行できるよう取り組みを行う。また、あわせて、市内に居住する赤谷出身者へ、二地域居住や土日帰省してもらうための受け入れ体制整備を実施する。
応募団体名	赤谷小学校区連携協議会
リンク	
部局／担当者名	新発田市企画政策部 市民まちづくり支援課 交流係 清田 稲盛樹
連絡先	新潟県新発田市中央町4-10-4 TEL 0254-22-3101 (1362) FAX 254-22-3110 E-mail : machizukuri@la.city.shibata.niigata.jp
推薦市町村名	新潟県新発田市